

北陸地方建設事業推進協議会

平成23年度

「建設技術報告会」

実施報告書

平成23年12月

北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

目次

1. 開催概要	
1) 目的	1
2) 開催日時	1
3) 開催場所	1
4) 構成と報告時間	3
5) 報告技術のテーマ	3
6) 主催構成機関及び実行委員会構成員	4
7) 聴講者数及び聴講者数の推移	5
2. 実施内容	
1) 開会式	6
2) 基調講演	6
3) 技術報告	6
4) 閉会式	7
5) 報告技術一覧	7
6) パネル展示コーナー	9
7) NETIS等登録技術コーナー	10
8) CPD/CPDS認証プログラム	13
3. 準備及び運営・設営	
1) スケジュール	14
2) 主な経緯	14
3) 運営体制	15
4) 会場設営	16
4. 広報	
1) 広報活動	21
5. アンケート	
1) 設問内容	24
2) 配布・回収	24
3) アンケート結果概要	25
4) 設問別集計結果	26

1. 開催概要

1) 目的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催されました。

本報告会は、平成7年度から開催され、今回で16回目の開催となりました。

2) 開催日時

■平成23年10月18日(火) 9時30分～16時30分

●受付

9時00分～16時00分 2階ロビー〔ホワイエ〕

●開会式

9時30分～9時40分 第1会場〔スノーホールB〕

開会挨拶 北陸地方整備局 企画部長 大寺 伸幸

●基調講演

9時40分～10時40分 第1会場〔スノーホールB〕

演題 「水災害と水理学」―大災害と学問の限界―

講演者 長岡技術科学大学 環境・建設系 教授 細山田 得三 氏

聴講希望者数が500名を越えたため、開会式・基調講演の様子を第2会場(中会議室)で放映しました。

●技術報告(分科会方式)

10時50分～16時10分

第1会場 スノーホールB

第2会場 中会議室201

●閉会式

16時20分～16時30分 第1会場〔スノーホールB〕

総評、閉会挨拶 平成23年度「建設技術報告会」実行委員長 岡村 幸弘

(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)

閉会式終了後の16時30分から2階ロビー(ホワイエ)で「CPD/CPDS」の受講証明書の発行を行いました。

3) 開催場所

■会場施設

朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

住所: 〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号

TEL: 025-246-8400

URL: <http://www.tokimesse.com/>

施設駐車場: 万代島駐車場/1,755台

■使用会場

- スノーホールB [2階] 第1会場：開会式・基調講演・技術報告・閉会式
聴講席：405席（スクール162席、シアター243席）
- 中会議室 201 [2階] 第2会場：技術報告
聴講席：216席（スクール90席、シアター126席）
- ホワイエ [2階] パネル展示コーナー／NETIS等登録技術コーナー／
東日本大震災パネル展示コーナー
- 小会議室 202 [2階] 来賓・講師控室
- 小会議室 203・204 [2階] 事務局控室（運営スタッフ）

■交通アクセス

- ◆新潟駅より
 - ・万代口から路線バスで15分
新潟駅万代口バスターミナル5番線より新潟交通17系統「朱鷺メッセ經由
佐渡汽船行き」に乗車、「朱鷺メッセ」下車
 - ・徒歩20分
- ◆自動車利用
 - ・日本海東北自動車道 新潟亀田ICより20分
 - ・関越・北陸自動車道 新潟西ICより30分
 - ・磐越自動車道 新潟中央ICより30分
- ◆新潟空港よりタクシーで20分



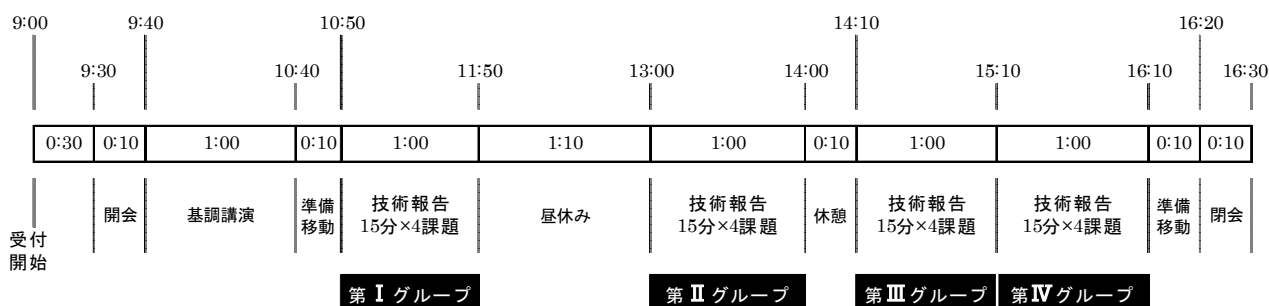
4) 構成と報告時間

基調講演と技術報告の2部構成とし、技術報告は2会場の分科会方式とした。

報告時間は「発表者入替」「プレゼンデータ立ち上げ」「質疑応答」を含めて1技術15分とし、1技術の報告終了毎に概ね3分間の質疑・応答時間を設けた。

技術報告：32技術（1技術×15分 質疑・応答含む）、基調講演：60分、昼休み：70分、休憩：10分

■第1会場：スノーホール（2F）



■第2会場：中会議室 201（2F）



5) 報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題のテーマ（5テーマ）に「その他」を含めた6テーマの分類により、合計32技術の技術報告を行った。

- ①雪に強い地域づくり 4技術
(克雪対策、冬期道路交通の安全確保・安全性に関する新技術 等)
- ②良いものを安く 10技術
(生産性向上、コスト縮減、省力化に関する新技術 等)
- ③自然災害からの安全確保 5技術
(危機管理、土石流などの防災に関する新技術 等)
- ④環境の保全と創造 6技術
(建設副産物、リサイクル、省エネルギーに関する新技術 等)
- ⑤ゆとりと福祉 1技術
(情報化、バリアフリーに関する新技術 等)
- ⑥その他 6技術
(東北地方太平洋沖地震における災害復旧活動等に関する報告及びその他①～⑤に属さない新技術 等)

【テーマ別報告技術数】

テーマ	報告技術
①雪に強い地域づくり	4
②良いものを安く	10
③自然災害からの安全確保	5
④環境の保全と創造	6
⑤ゆとりと福祉	1
⑥その他	6
合計	32

6) 主催構成機関及び実行委員会構成員

■主催構成機関

主催は、『北陸地方建設事業推進協議会 平成23年度「建設技術報告会」実行委員会』である。
以下に実行委員会の構成機関（23機関）を示す。

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社
 中日本高速道路(株)金沢支社／(社)日本建設連合会北陸支部
 (社)日本道路建設業協会北陸支部／(社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
 (社)日本建設機械化協会北陸支部／(社)新潟県建設業協会／(社)富山県建設業協会
 (社)石川県建設業協会／北陸土木コンクリート製品技術協会
 (社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸PC防雪技術協会
 (社)新潟県融雪技術協会／(財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会
 (社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(社)北陸建設弘済会／(社)日本橋梁建設協会北陸事務所

■実行委員会構成員

役員	所属	役職	備考
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	
副委員長	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	
委員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課長	
委員	北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	課長	
委員	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	会計監査員
委員	富山県 土木部 建設技術企画課	技術指導係長	
委員	石川県 土木部 監理課 技術管理室	課長補佐	
委員	新潟市 工事検査センター	次長	
委員	東日本高速道路(株)新潟支社 総合企画部 技術企画課	課長代理	
委員	中日本高速道路(株)金沢支社 総務企画部 企画調整チーム	サブリーダー	
委員	(社)日本建設業連合会 北陸支部	契約積算・技術副委員長	
委員	(社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	
委員	(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	
委員	(社)日本建設機械化協会 北陸支部	普及部会委員	
委員	(社)新潟県建設業協会	業務部長	
委員	(社)富山県建設業協会	参事	
委員	(社)石川県建設業協会	参与	
委員	北陸土木コンクリート製品技術協会	技術委員長	
委員	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	広報部会長	
委員	北陸PC防雪技術協会	事務局長	
委員	(社)新潟県融雪技術協会	技術委員長	
委員	(財)新潟県建設技術センター	情報管理部長	
委員	北陸地質調査業協会	事務局長	
委員	(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	技術委員長	
委員	(社)北陸建設弘済会	技術部長	
委員	(社)日本橋梁建設協会 北陸事務所	所長	

7) 聴講者数及び聴講者数の推移

■聴講者数

本年度の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

【平成23年度「建設技術報告会」 聴講者集計表】

機関・団体名		申込	実績
官公庁	国交省、新潟県、富山県、石川県、新潟市、上越市	100	86
民間		473	379
発表者(官公庁)		5	5
発表者(民間)		28	27
報道		0	5
合計		606	502

■「建設技術報告会」聴講者数の推移

【「建設技術報告会」聴講者数（第1回～第15回）】

内訳	開催年															
	1995	1996	1997	1998	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45	47	33	47	43	67
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18	29	24	23	49	24
民間(協会等)	189	373	430	206	364	401	471	354	360	319	278	302	404	343	459	411
学校	0	0	0	0	0	0	0	35	7	0	0	0	0	0	0	0
合計	267	643	658	429	533	576	630	511	478	458	341	378	461	413	551	502
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市				富山市	新潟市		

注) 1. 発表者(官公庁)は国交省等に、発表者(民間)及び報道関係者は、「民間(協会等)」に含む。

2. 「自治体」には、市町村関係者を含む。



第1会場



第2会場

2. 実施内容

1) 開会式

時 間：9時30分～9時40分
会 場：第1会場〔スノーホールB〕
開会挨拶：北陸地方整備局 企画部長 大寺 伸幸
司 会：北陸技術事務所 副所長 帆苅 晃也



2) 基調講演

時 間：9時40分～10時40分
会 場：第1会場〔スノーホールB〕
演 題：「水災害と水理学—大災害と学問の限界—」
講 演 者：長岡技術科学大学—環境・建設系—
教授 細山田 得三 氏
司 会：北陸技術事務所 副所長 帆苅 晃也



3) 技術報告

時 間：10時50分～16時10分
会 場：第1会場〔スノーホールB〕 16技術
第2会場〔中会議室201〕 16技術
司 会：第1会場 (社)日本建設業連合会 北陸支部 (鹿島建設株) 山崎 久義
北陸地方整備局 企画部 施工企画課 課長補佐 宮島 実
第2会場 (社)日本道路建設業協会 北陸支部 (本間道路株) 齋藤 幸雄
北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 課長補佐 高橋 信幸



第1会場 報告状況



第2会場 報告状況

4) 閉会式

時 間：16時20分～16時30分
 会 場：第1会場〔スノーホールB〕
 閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長 岡村 幸弘
 （北陸地方整備局 北陸技術事務所長）
 司 会：北陸技術事務所 副所長 帆苅 晃也



5) 報告技術一覧

報告技術の募集を5月18日から開始し、34技術の応募があった。そのうち2技術については主催機関に加盟していなかったことから不採用とし、以下の32技術の発表を行った。

【報告技術一覧表（主催機関・団体別）】

（その1）

主催機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	機関・会社名・所属
国土交通省 北陸地方整備局	①	国道17号湯沢地区における冬期登坂不能車対策について	長岡国道事務所 湯沢維持出張所
	②	直江津港沖防波堤の新技術による設計について	新潟港湾空港技術調査事務所 設計室
	②	老朽化砂防堰堤における物理探査を用いた解析モデル構築について	湯沢砂防事務所 調査課
	②	上越三和道路の軟弱地盤対策のコスト縮減	高田河川国道事務所 工務第二課
	③	大規模地震に対応したコンテナクレーン用新型免震装置の研究開発	港湾空港部 海洋環境・技術課
(社)日本建設業連合会 北陸支部	②	タフスラブ・ラピッド工法(道路橋床版上面増厚工法)	(株)大林組 生産技術本部 橋梁技術部
	②	パイプドリル工法による岩盤掘削実績	鹿島建設(株) 北陸支店
	②	老朽化した吹付法面を補修・補強するニューレスプ工法の開発	日特建設(株) 技術本部 技術営業グループ
	②	アクアカーテン ーコンクリート構造物の浸水養生工法ー	(株)間組 土木事業本部
	②	未固結砂地盤での確実な注入方式の確立	前田建設工業(株) 北陸支店 卯辰トンネル作業所
	③	既設盛土耐震補強法(クロスアンカー工法)の開発	大成建設(株) 技術センター 土木技術研究所
	③	グラウンドアンカーの維持管理技術 Licos,Aki-Mos	日特建設(株) 技術本部 技術開発グループ
	④	建設現場の省エネ・節電を管理するスマートサイトシステム	清水建設(株) 土木技術本部 技術開発部
(社)日本道路建設業協会 北陸支部	①	アスファルトモルタルのたわみを利用した氷板破碎舗装の開発	福田道路(株) 技術研究所
	②	舗装工事におけるマシンコントロール技術の適用について	世紀東急工業(株) 技術本部 技術部 技術グループ

主催機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	機関・会社名・所属
社)日本道路建設業協会 北陸支部	④	保水性軽量インターロッキングブロックの開発について	日本道路(株) 北信越支店
	④	抗菌ポーラスアスファルト舗装の機能維持について	(株)ガイアート T・K 技術研究所
	⑥	道路橋RC床版の長寿命化対策としての接着剤を用いた SFRC 上面増厚補強工法	鹿島道路(株) 生産技術本部 技術部
	⑥	HS アスコン(高耐久性・高安定性アスファルト混合物)	東亜道路工業(株) 北陸支店 技術部
(社)新潟県建設業協会	②	法面削孔装置の移動式可変勾配足場(ななめ台作)	(株)郷土建設藤村組
	④	断熱パネルを用いた型枠工法	五十嵐建設工業(株) 建築部
	④	土粒子回収循環システム	(株)郷土建設藤村組 特殊工事事業課
	⑤	ポータブル ワイヤレス ライブカメラシステム(OPECA)の活用事例とその活用効果について	大陽開発(株) 開発事業部
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	①	富山市内歩道融雪工事における融雪装置組込RC舗装版の設置事例	(株)興和 水工部 (プレキャスト RC 版舗装協会会員)
	③	アスファルト舗装の地震対策型段差抑制工法の開発	(株)NIPPO 北信越支店 技術グループ
北陸 PC 防雪技術協会	⑥	大型プレキャストアーチカルバート設計・施工要領	日本サミコン(株) 技術部
新潟県融雪技術協会	①	井戸の二重ケーシング専用ストレナーの開発について	(株)興和 水工部
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	③	バルーングラウト工法	東亜建設工業(株)
	④	消波・被覆ブロック(アクアリーフ・ペルメックス)による環境共生	(株)不動テトラ ブロック環境事業本部
	⑥	ケーソン中詰材施工システム	(株)本間組 土木事業本部 土木部
	⑥	HONMA 函体据付システム	(株)本間組 土木事業本部 土木部

注) テーマ番号 ① 雪に強い地域づくり ② 良いものを安く ③ 自然災害からの安全確保
 ④ 環境の保全と創造 ⑤ ゆとりと福祉 ⑥ その他

6) パネル展示コーナー

主催機関の傘下会社で開発された新技術・新工法などを対象に技術パネルの展示コーナーを併設した。

なお、技術パネルの展示は展示希望を募り、31技術の応募があった。そのうち、1技術は主催機関に加盟していない者であったことから不採用とし、30技術のパネルの展示及び技術パネルの紹介パンフレットの配布を行った。

また、3月11日に発生した東日本大震災における国交省及び各協会の災害支援活動等のパネル展示を行った。

時 間：9時00分～16時00分

会 場：2階ロビー（ホワイエ）

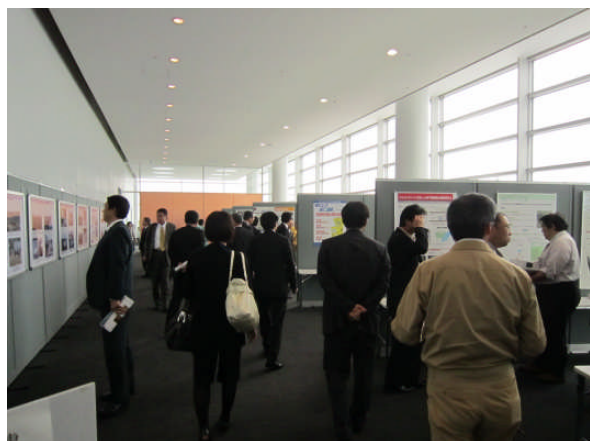
【パネル展示一覧表】

(その1)

No.	技 術 名	機関・会社名・所属	パンフ
国土交通省 北陸地方整備局			
1	NETIS (新技術情報提供システム)	北陸技術事務所	1
新潟県			
2	Made in 新潟 新技術普及・活用制度	新潟県 土木部 技術管理課	1
(社)日本建設業連合会 北陸支部			
3	軽量緑化パネル工法	株式会社植木組	1
4	浸透固化処理工法	五洋建設株式会社	1
5	うるおい	西松建設株式会社北陸支店	—
6	温めく	西松建設株式会社北陸支店	1
7	アクアカーテン -コンクリート構造物の浸水養生工法-	株式会社間組	1
8	イージーラーメン橋(H鋼桁埋込RC複合門形ラーメン橋)	株式会社加賀田組 新潟支店	1
9	ジェットクリート工法	鹿島建設株式会社 北陸支店	1
10	コンクリート構造物の断面修復乾式吹付け工法	第一建設工業株式会社	1
11	クロスアンカー工法	大成建設株式会社 北信越支店	1
12	キロ・フケール工法	日特建設株式会社	1
(社)日本道路建設業協会 北陸支部			
13	延長床版プレコンポ工法	株式会社ガイアート T・K 北陸支店	1
14	道路用 PRC 版	株式会社ガイアート T・K 北陸支店	1
15	L-Lライン	鹿島道路株式会社 北陸支店	1
16	HSアスコ	東亜道路工業株式会社	1
17	保水性軽量ブロック「レインボーエコブロックBiz」	日本道路株式会社	—
18	H-ICT技術	本間道路株式会社	1
19	グレーチングストッパーSP	丸運建設株式会社	1
20	リビルドアスコ	株式会社金沢舗道	1

(その2)

No.	技 術 名	機関・会社名・所属	パンフ
(社)日本建設機械化協会 北陸支部			
21	リバーシブル型プレキャストRC版舗装工法	福田道路株式会社本社	1
22	アスファルト舗装の地震対策型段差抑制工法	株式会社 NIPPO	1
(社)新潟県建設業協会			
23	断熱パネルを用いた型枠工法	五十嵐建設工業株式会社	1
24	ポータブル ワイヤレス ライブカメラシステム 【OPECA】	大陽開発株式会社	1
北陸土木コンクリート製品技術協会			
25	ASKパネル（防草ブロック）	株式会社アドヴァンス	1
北陸PC防雪技術協会			
26	A p _ p a s s工法（プレキャストアーチカルバート）	日本サミコン株式会社	1
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部			
27	ペルメックス	株式会社不動テトラ	1
28	カキ殻を活用した屋上緑化工法	株式会社本間組	1
29	バルーングラウト工法	東亜建設工業株式会社	1
(社)北陸建設弘済会			
30	W/Cミータ	社団法人北陸建設弘済会	1
パンフレット数 合計			28



パネル展示コーナー

7) NETIS等登録技術コーナー

「新技術情報提供システム（NETIS）」及び「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」などの登録技術を対象にパンフレット配布による技術紹介コーナーを併設した。

なお、パンフレットは配布希望を募り、39技術の応募があった。そのうち、1技術は主催機関に加盟していない者であったことから不採用とし、38技術の紹介パンフレットを配布した。

時 間：9時00分～16時30分（会期中常設）

会 場：3階ロビー（ホワイエ）

【NETIS等登録技術一覧表】

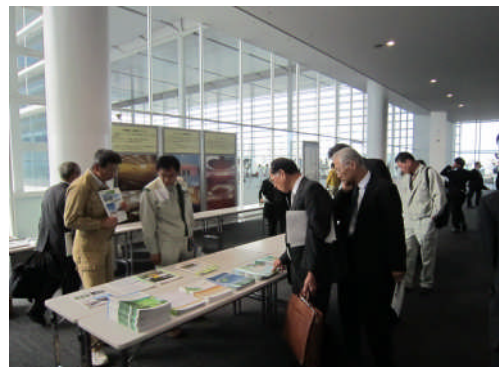
(その1)

No.	技術名	会社名・所属	注) 登録機関名	登録番号
(社)日本建設業連合会 北陸支部				
1	軽量緑化パネル工法	株式会社植木組	新潟県	20K1002
2	浸透固化処理工法	五洋建設株式会社	国土交通省	KT-990230
3	コンクリート構造物の断面修復乾式吹付け工法	第一建設工業株式会社	国土交通省 新潟県	CB-020040 18D1027
4	ジオファイバー工法	日特建設株式会社	国土交通省	KT-980183
5	カエルドグリーン工法	日特建設株式会社	国土交通省	TH-020037
6	自生種回復緑化工法	日特建設株式会社	国土交通省	CG-080004
7	つかめソイル工法	日特建設株式会社	国土交通省	SK-110005
8	サンダーグリーン工法	日特建設株式会社	国土交通省	SK-100014
9	アクアカーテンーコンクリート構造物の浸水養生工法ー	株式会社間組	国土交通省	HR-110011
(社)日本道路建設業協会 北陸支部				
10	延長床版プレコンボ工法	株式会社ガイアート T・K 北陸支店	国土交通省	KT-020028
11	道路用 PRC 版	株式会社ガイアート T・K 北陸支店	国土交通省	CB-020006
12	グルーピングウレタン工法	鹿島道路株式会社 北陸支店	国土交通省	TH-990010
13	ECO バインダーシリーズ	東亜道路工業株式会社	国土交通省	KT-100013
14	スーパーEpo グース	日本道路株式会社	国土交通省	CB-100025
15	リフレッシュシール Mix	日本道路株式会社	国土交通省	TH-100011
16	低炭素アスファルト混合物 H ナチュラルペープ	本間道路株式会社	国土交通省	HR-100014
17	グレーチングストッパー	丸運建設株式会社	国土交通省 新潟県	HR-030035 18D1044
18	グレーチングストッパーSP	丸運建設株式会社	国土交通省 新潟県	HR-050026 18D1045
19	リビルドアスコン	株式会社金沢舗道	国土交通省	HR-080025
(社)新潟県建設業協会				
20	断熱パネルを用いた型枠工法	五十嵐建設工業株式会社	新潟県	22K1003
21	ポータブルワイヤレスライブカメラシステム【OPECA】	大陽開発株式会社	新潟県	22D1010
(社)日本建設機械化協会 北陸支部				
22	ランブルストリップス	株式会社 NIPPO	国土交通省	HK-030032
23	パーピアスクリーン	株式会社 NIPPO	国土交通省	KT-050072
24	リバーシブル型プレキャスト RC 版舗装工法	福田道路株式会社	国土交通省	HR-990034

(その2)

No.	技術名	会社名・所属	登録機関名 ^{注)}	登録番号
北陸土木コンクリート製品技術協会				
25	大型残存パネル	株式会社アドヴァンス	国土交通省 新潟県	HR-070014 21D1013
26	抜管技術を用いた消雪パイプブロック	株式会社アドヴァンス	国土交通省	HR-100012
27	フレックス笠コンブロック	株式会社アドヴァンス	国土交通省 新潟県	HR-990108 21D1014
北陸土木コンクリート製品技術協会				
28	コニカルマット	株式会社アドヴァンス	国土交通省	HR-110013
北陸PC防雪技術協会				
29	ランクアップフェンス（小規模落石防護柵）	日本サミコン株式会社	国土交通省 新潟県	HR-090013 20D1018
30	ムーブソールフェンス（支柱脚部改良型鋼製吊柵）	日本サミコン株式会社	新潟県	20D1017
31	雁木工法	日本サミコン株式会社	新潟県	18D2025
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部				
32	ベルメックス	株式会社不動テトラ	国土交通省	KT-090024
33	テトラネオ	株式会社不動テトラ	国土交通省	KTK-100005
34	ドロスII型	株式会社不動テトラ	国土交通省	SKK-090004
35	潜水土安全支援システム	株式会社本間組	国土交通省	HRK-100001
36	KS-EGG 工法	あおみ建設株式会社	国土交通省	CG-010009
37	KS-S・MIX 工法 (kokudo Sougou-Super・MIXing 工法)	あおみ建設株式会社	国土交通省	KK-100054
38	ガンパイル工法	東亜建設工業株式会社 北陸支店	国土交通省	KT-990499

注) 国土交通省－「新技術情報提供システム (NETIS)」
新潟県－「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」
石川県－「石川県 建設新技術認定・活用制度」



NETIS 等登録技術コーナー

8) CPD/CPDS 認証プログラム

社会資本整備に携わる建設技術者の技術力向上の場として、本報告会を積極的に活用していただくことを目的に、平成20年度より建設系 CPD 協議会による「CPD（継続教育）」プログラム及び社団法人全国土木施工管理技士会連合会による「CPDS（継続学習制度）」の認定講習となっており、その対象者への受講証明の交付を行った。

■ 受講受付

時間：9時00分～10時00分
 場所：3階ロビー（ホワイエ）
 聴講受付—受講証明書引換券配付

■ 受講証明発行

時間：16時30分～17時00分
 場所：3階ロビー（ホワイエ）
 CPD/CPDS 受付—引換券により受講証明書発行

平成23年度 受講証明書交付数：266人（CPD—89人 CPDS—177人） *聴講者の50%以上

建設系 CPD 協議会による CPD（継続教育）
 受講証を申し込まれた方へ

北陸地方建設事業推進協議会
 平成23年度「建設技術報告会」

受講証明書 引換券
 CPD（継続教育）

受講証明書発行 閉会式終了後（16時30分～17時00分）
 平成23年度「建設技術報告会」実行委員会

CPD 受講証明書 引換券

(社)全国土木施工管理技士会連合会の CPDS（継続学習制度）
 受講証を申し込まれた方へ

北陸地方建設事業推進協議会
 平成23年度「建設技術報告会」

受講証明書 引換券
 CPDS（継続学習制度）

受講証明書発行 閉会式終了後（16時30分～17時00分）
 平成23年度「建設技術報告会」実行委員会

CPDS 受講証明書 引換券

建設系 CPD 協議会加盟団体主催 CPD 申請書・受講証明書

建設系 CPD 協議会加盟団体の主催する講習会受講記録を、地盤工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会のいずれかに CPD 申請する場合は、以下の内容を記入して、プログラム開催主催者の受講証明印をもらった上で団体事務局あてに送付（FAX）して CPD 申請を行ってください。

項目名	申請内容	
申請日	年 月 日	
申請者情報	申請者名	
	会社名等	
	会社住所等	
	TEL FAX	
所属団体(学会)名	所属団体(学会)名	
	会員番号	
	開催日	平成23年10月18日
プログラム情報	CPDプログラム名称	平成23年度「建設技術報告会」
		CPDプログラム番号： 201108310014
	主催者	平成23年度「建設技術報告会」実行委員会
	開始～終了時間	9時30分～16時30分
CPD単位	5単位	
開催地	新潟県新潟市中央区万代島6番1号 朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）	

【CPDプログラム主催者の方へお願い】
 プログラム名、開催日、受講者氏名をご確認の上、証明団体をご記入して証明印をお願いいたします。

証明団体名 北陸地方整備局 北陸技術事務所
 平成23年度「建設技術報告会」実行委員会

*CPD記録申請にあたって本受講証明が必要となる団体
 地盤工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会

CPD 受講証明書

No.

受講証明書

受講者名 又は 通し番号			
プログラム名称	平成23年度「建設技術報告会」		
プログラム番号	152930	ユニット数	5 unit
講習日・時間	2011年10月18日 9:30～16:30		
講習会場	【新潟県】朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)		

上記の者について、講習会を受講したことを証明します。

2011年10月18日

主催：北陸地方整備局 北陸技術事務所
 平成23年度 「建設技術報告会」実行委員会

CPDS 受講証明書

3. 準備及び運営・設営

1) スケジュール

平成23年度「建設技術報告会」は、下記のとおり実施した。

北陸地方建設事業推進協議会 平成23年度「建設技術報告会」運営スケジュール

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実行委員会等											
北陸地方建設事業推進協議会 運営委員会	● 2/7										
実行委員会事前準備											
会計監査											
実行委員会				● 5/17							● 12/7
協議・決定事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・規約(案)の協議・承認 ・実施計画(案)の協議・承認 ・予算(案)の協議・承認 						<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況報告 ・決算報告 	
報告技術募集及び原稿作成等											
案内原稿作成(チラシ)											
ホームページ開設・運営				作成	報文等募集			聴講募集		作成	開催結果
報告技術募集・取りまとめ (主催機関)				5/18	6/30			9/2	9/30		
報告技術検討・選定											
採否通知 (事務局)											
報告論文原稿作成・提出 (報告技術発表者)											
プレゼンデータ作成・提出 (報告技術発表者)											
パネル展示募集・取りまとめ (主催機関)											
NETIS等登録技術パンフレット配布募集・ 取りまとめ(主催機関等)											
聴講募集(主催機関等)											
報告論文集(CD版)作成											
その他											
記念講演者依頼・報道投込み											
CPD/CPDS登録申請											
報告会開催											

2) 主な経緯

会議名等	実施日時	会場	内容
平成23年度 北陸地方建設事業推進協議会運営委員会	平成23年2月7日(月)	北陸地方整備局 4階 会議室	「建設技術報告会」の開催承認
平成23年度「建設技術報告会」 第1回実行委員会	平成22年5月17日(水) 14時00分~15時30分	北陸技術事務所 会議室	規約(案)の協議・承認 実施計画(案)の協議・承認 予算(案)の協議・承認
平成23年度「建設技術報告会」開催	平成23年10月18日(火) 9時00分~17時00分	朱鷺メッセ 2階スノーホールB 2階中会議室	報告会開催
平成23年度「建設技術報告会」 第2回実行委員会	平成23年12月7日(水) 14時00分~15時30分	北陸技術事務所 会議室	実施結果報告 決算報告 次回開催について

3) 運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ及び会場施設スタッフの32名（官：21名、民：11名）の協力により実施した。

【運営体制表】

担当・対応時間・会場等		運営人員	北陸地方整備局 16人	新潟県 3人	新潟市 2人	新潟建設業協会 2人	日本建設連合会 3人	道路建設業協会 3人	建設機械化協会 1人	埋立浚渫協会 2人	
受付係	聴講受付	9:00-16:30 受付開始～ 閉会終了 (終日)	3		品田 吉廣		片野 美	小倉 悦子			
		9:00-10:40 受付開始～ 講演終了	9		高橋 英明 坂井 浩	金子 安良 岡田 清	加藤 大介	佐藤 睦子	渋谷 麻美 植松 忍	青木 鉄朗	
	CPD/CPDS 受付	9:00-17:00 受付開始～ 最終 (終日)	3	長谷川 学 佐藤 美和子 佐藤 真梨							
		16:30-17:00 閉会終了～ 最終	(4)	(山本 茂樹) (長谷川 崇) (鈴木 智徳) (田村 孝夫)							
技術報告	司会係	10:50-14:00 (Ⅰ・Ⅱ) 第1会場	1 (1)	(宮島 実)				山崎 久義			
		14:10-16:10 (Ⅲ・Ⅳ) 第2会場	1 (1)	(高橋 信幸)				齋藤 幸雄			
	時間管理係	10:50-16:10 第1会場	(1)			(岡田 清)					
		10:50-16:10 第2会場	(1)		(高橋 英明)						
	パソコン係	10:50-16:10 第1会場	(1)			(金子 安良)					
		10:50-16:10 第2会場	(1)		(坂井 浩)						
	マイク受渡係	10:50-16:10 第1会場	(2)				(加藤 大介)			(青木 鉄朗)	
		10:50-16:10 第2会場	(2)				(佐藤 睦子)	(渋谷 麻美)			
	会場照明係	9:40-16:40 第1会場	1	田邊 剛							
		10:50-16:10 第2会場	(1)					(植松 忍)			
	写真係	9:00-10:40 全体 (開会・講演)	2							神蔵 昌士 佐藤 淳一	
		10:50-16:10 第1会場 第2会場	(1) (1)							(神蔵 昌士) (佐藤 淳一)	
事務局	総合司会	9:30-9:40 開会式	1	帆刈 晃也							
		9:40-10:40 基調講演 開会式									
	来賓対応	9:00-11:00 第1会場 講師 来賓控室	1	木村 繁							
		10:40-16:10 受付常駐	3 (1)	(帆刈 晃也) 宮島 実 高橋 信幸 関口 忠志							
	連絡調整係	8:30-17:00 会場全体	1	吉川 進							
		8:30-17:00 全体写真係 (実施状況・開閉会・基調講演)	1	加藤 学							
	運営設置係	9:40 10:40-10:50 16:10-16:20 第1会場(配 置替え)	4	山本 茂樹 長谷川 崇 鈴木 智徳 田村 孝夫							
		16:00-16:30 (トイレ機取)	(5)	(吉川 進) (加藤 学) (長谷川 学) (関口 忠志) (山田 尚子)							
	接 遇 係	8:30-11:00 講師来賓控室	1	山田 尚子							

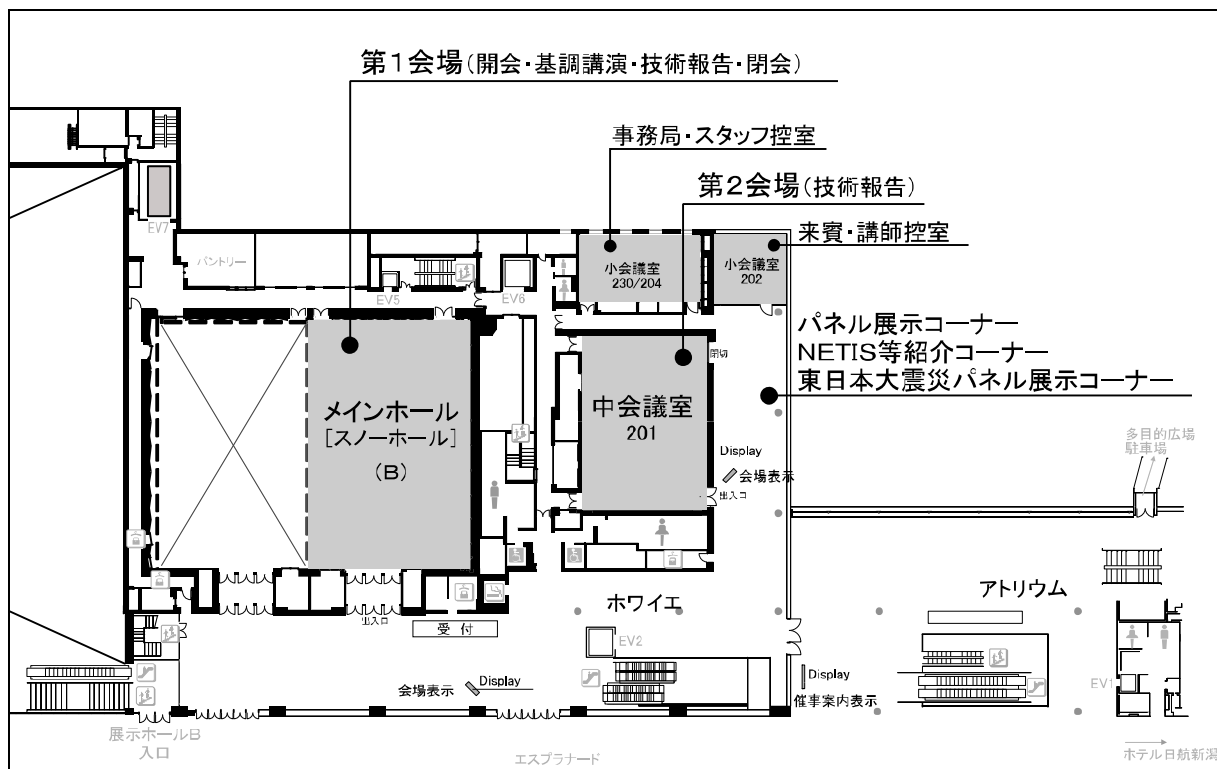
機関・団体別 スタッフ人数

国土交通省 北陸地方整備局					主催 協力機関・団体								合計
企画部 施工企 画課	港湾空港部 海洋環境・技 術課	新潟 技調	北陸 技術	小計	新潟 県	新潟 市	新建 協	日建 連	道建 協	機械 協	埋浚 協	小計	
4	2	2	8	16	3	2	2	3	3	1	2	16	32

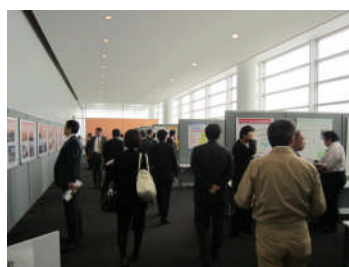
4) 会場設営

■フロアマップ

使用会場の位置を示す。



聴講・CPD/CPDS 受付



パネル展示コーナー



NETIS登録技術コーナー



聴講・CPD/CPDS 受付表示



来賓控え室



事務局控え室



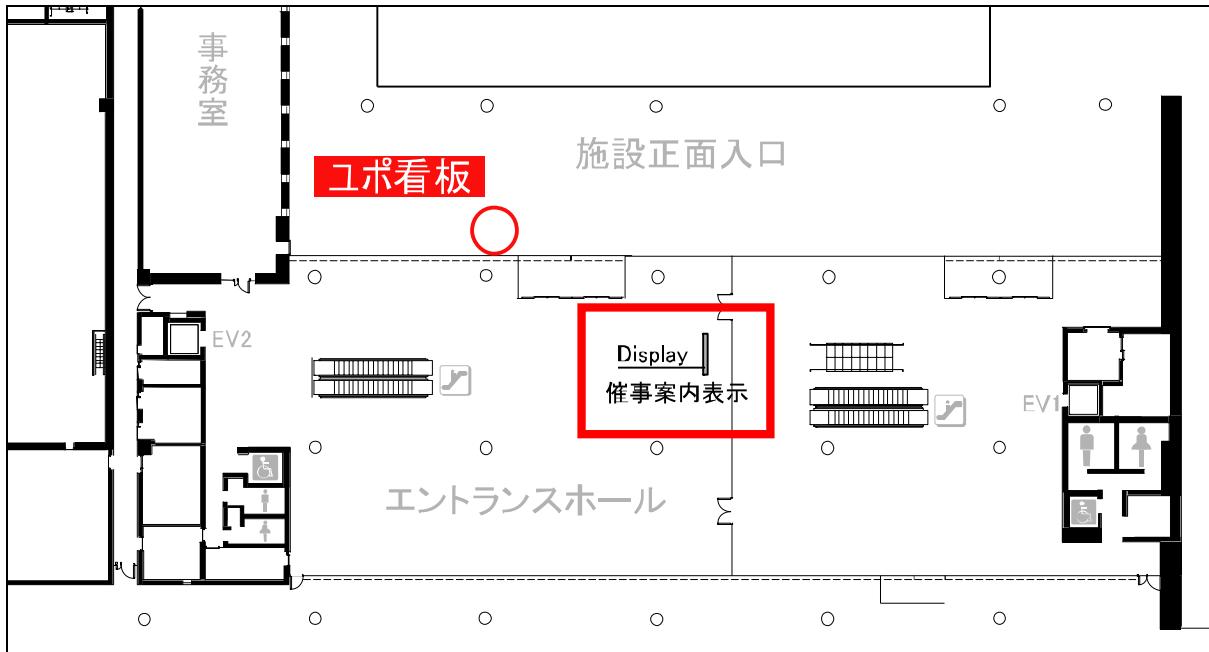
第1会場



第2会場

■フロアレイアウト図

1階 平面図



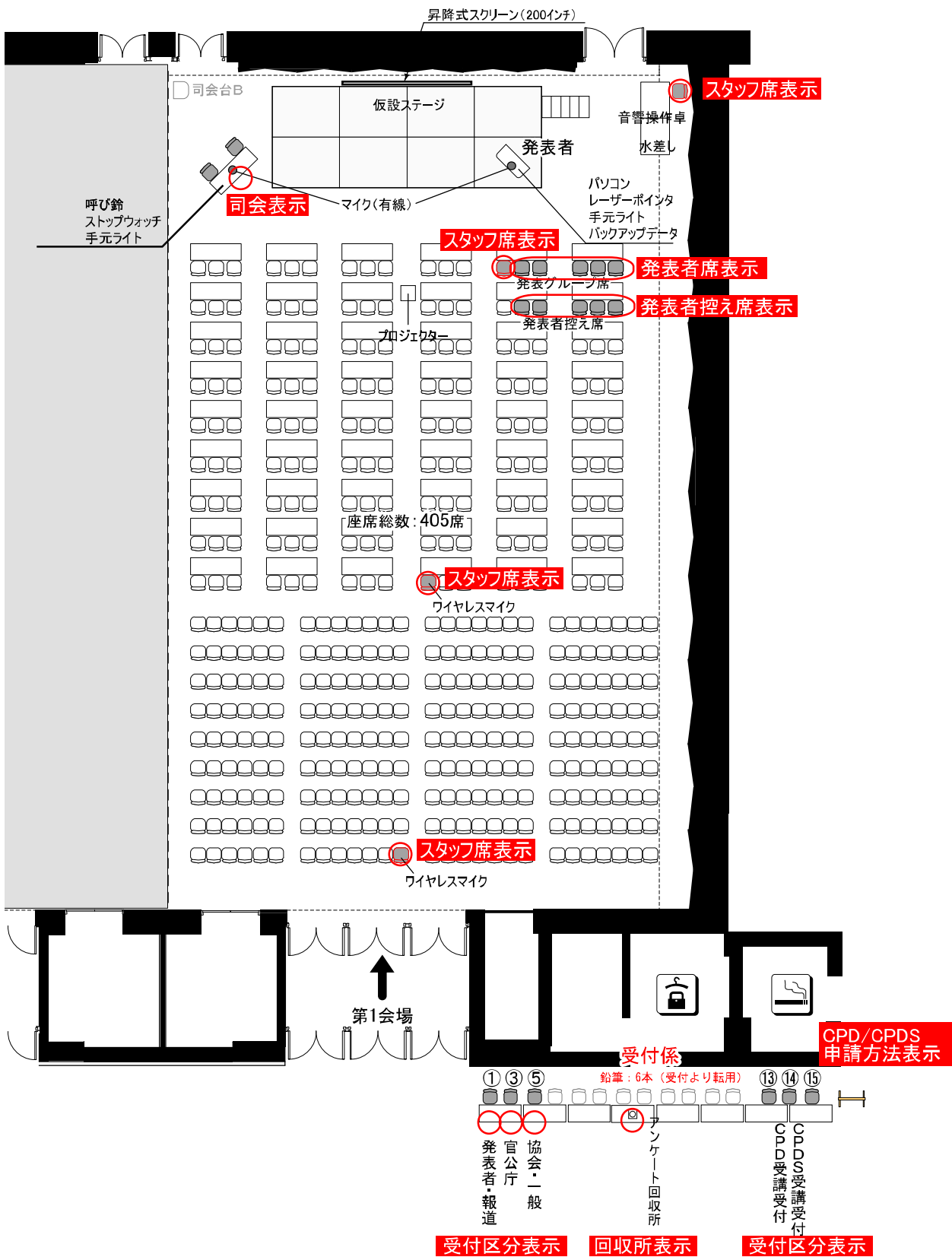
催事案内 (ユポ看板)



催事案内表示

フロア	会場	催事名
4F	メインホール (旧都立大)	11月生命保険月 進捗全員大会
3F	中会議室301H	新潟薬科大学 SP養成講習会
3F	中会議室302	雇用保険説明会
3F	小会議室305	電子納品講習会 ~新潟県CALSシステム実機対応~
3F	小会議室306・307	ひまわり会
2F	スナックホール (2F)	北陸地方建設事業推進協議会 【第1会場】
2F	中会議室201	北陸地方建設事業推進協議会 平成23年度 建設技術報告会 【第2会場】

■会場詳細レイアウト図
 ■第1会場（スノーホール）



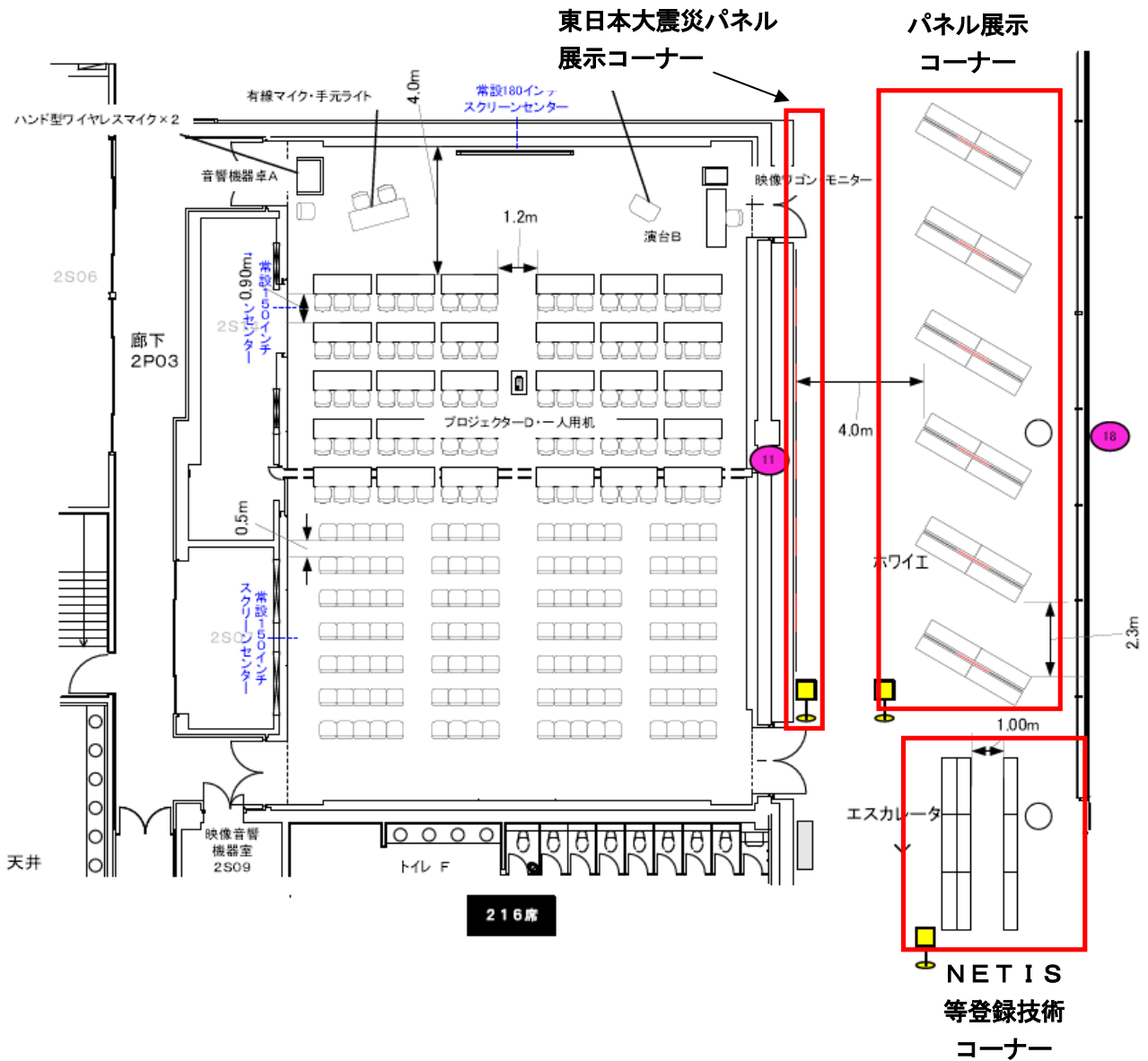
■第2会場（中会議室）

来賓・講師控室
(小会議室202)

事務局控室
(小会議室203・204)



■ 3階ロビー（ホワイエ：北側）パネル展示コーナー・東日本大震災パネル・NETIS等登録技術



4. 広報

1) 広報活動

	種別・内容	方法	時期	摘要
チラシ配布	報告技術募集用 (北技HP掲載)	配布・募集	5月18日～	実行委員会 主催機関・団体
	聴講募集用 (紙・電子データ)		9月2日～	
定期刊行誌	北陸の建設技術 各主催機関・団体	掲載 掲載依頼	8月号(聴講募集) 11月号(開催結果) 適宜	
記者クラブ	新潟県政記者クラブ 新潟県政記者クラブ 富山県政記者クラブ 石川県政記者クラブ 山形県政記者クラブ 長野県政記者クラブ 福島県政記者クラブ 岐阜県政記者クラブ 福井県政記者クラブ	記者発表	10月12日	開催概要 プログラム
建設専門誌	新潟県、富山県、石川県 山形県、長野県、福島県 福井県			
ホームページ	北陸技術事務所	開設・運用	5月18日～(報告技術募集) 9月2日～(聴講募集)	
	各主催機関・団体		適宜	

2) 広報等掲載一覧

■新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成23年9月12日(月)
		平成23年10月19日(水)

※取材 鉄鋼新聞社新潟支局、北陸工業新聞社、日刊建設工業新聞社、建設速報社、日本工業経済新聞社

■定期刊行誌

掲載紙	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	8月号(聴講募集)、11月号(開催結果)

■ホームページ

掲載機関	ホームページアドレス	掲載コンテンツ
(社)日本建設機械化協会北陸支部	http://www.niigata-inet.or.jp/jcmahoku/	「What's news」 「トップ(バナー掲載)」
(社)新潟県建設業協会	http://www.shinkenkyo.or.jp/	「新着情報」
(社)富山県建設業協会	http://www.tomiken.or.jp/	「新着情報」
国土交通省北陸地方整備局	http://www.hrr.mlit.go.jp/index.html	「トップ(バナー掲載)」
国土交通省新潟港湾空港技術調査事務所	http://www.gicho.pa.hrr.mlit.go.jp/	「トップ(バナー掲載)」
国土交通省北陸技術事務所	http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/	「トップ(バナー掲載)」

■HP掲載事例

北陸地方整備局トップページ

北陸技術事務所トップページ

平成23年度 建設分野の新技術・新工法の報告会

建設技術報告会

北陸地方建設事業推進協議会
平成23年度「建設技術報告会」実行委員会

北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催します。

本報告会は平成7年度から開催され、今回で第16回目の開催となります。

皆様方の多数のご参加をお待ちしています。なお、本報告会はCPD(継続教育)プログラムおよびCPDS(継続学習制度)学習プログラムに登録されています。(5単位)

多くの聴講ありがとうございました

～建設分野に関する新技術・新工法などを発表します～

1. 開催日時

■平成23年10月18日(火) 9時30分～16時30分

- 受付 9時00分～
- 開会式 9時30分～ 9時40分 第1会場[スノーホールB]
- 基調講演 9時40分～10時40分 第1会場[スノーホールB]
「水災害と水理学 一大災害と学問の限界」
長岡技術科学大学 一環境・建設系 教授
細山田 得三 氏
- 技術報告 10時50分～16時10分 第1会場[スノーホールB]
10時50分～16時10分 第2会場[中会議室201]
- パネル展示・NETIS パンフォー 2F ホワイエ
ナー
- 閉会式 16時20分～16時30分 第1会場[スノーホールB]

2. 開催場所

■朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

住所: 〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6番1号
電話: 025-246-8400

駐車場: 施設周辺有料駐車場(万代島駐車場(A～E)) 大型バス 20台、普通車 約1,700台
※駐車料金は、入場から最初の60分無料、以後30分までごとに100円。
1日(入場から24時間)当たり最大1,500円

※駐車場案内はこちら

来場の際はなるべく公共交通機関をご利用願います。

チラシの
[DOWNLOAD](#)
[PDF: 1.725KB]

建設技術報告会HP (開催後)

2011年(平成23年)9月12日(月曜日)

北陸地方整備局と北陸計32技術の内容を各社の3県など組織する北陸...

調査業務)▽老朽化) トロール技術の適用(世対策)▽洋建設)道路用(水板破砕舗装の開...

北陸整備局 10月18日に新潟市で技術報告会 32の新技术・工法紹介

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

北陸整備局建設技術報告会 北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告...

2011年(平成23年)10月19日(水曜日)

来場者多数でにぎわう

北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告3県など組織する北陸...



北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告3県など組織する北陸...

北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告3県など組織する北陸...

北陸地方整備局と北陸整備局企画部長は、報告3県など組織する北陸...

建設技術報告会 平成23年度 建設技術報告会 開催日 10月18日

5. アンケート

次回以降の開催の参考とするため、聴講者を対象にアンケート調査を実施した。

1) 設問内容

北陸地方建設事業推進協議会
「平成23年度 建設技術報告会」アンケート

建設技術報告会にご参加いただき誠にありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますため、アンケート調査にご協力下さい。
*回答は、記述式の設問以外は該当する記号を○で囲んでください。

問1. 職業・職種をお聞かせ下さい。
A. 国土交通省職員 B. 県職員 C. 市町村職員 D. 公団職員
E. A～Dに属さない官公庁（機関名：）
F. 建設関連の会社（技術職） G. 建設関連の会社（事務職）
H. 建設関連の協会・団体 I. その他（）

問2. 主な仕事の分野をお聞かせ下さい。
A. 河川 B. 道路 C. 砂防 D. 港湾空港 E. 営繕
F. 上下水道 G. 共通（） H. その他（）

問3. どちらから来られましたか。
A. 新潟市内 B. 新潟市を除く新潟県内（） C. 富山県
D. 石川県 E. その他（）

問4. この報告会を何で知りましたか。
A. 協会・団体からの案内 B. ホームページ C. チラシ
D. 国土交通省・県・市からの案内 E. くちこみ F. その他（）

問5. この報告会の参加回数をお聞かせ下さい。
A. 初めて B. 2～5回 C. 5～10回 D. 10回以上

問6. 建設事業への新技術導入の必要性についてお聞かせ下さい。
A. 必要性を感じる B. 多少感じるが急務の問題ではない C. 特に問題意識はない

問7. 上記の問7. で「イ. 必要性を感じる」または「ロ. 多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方にお聞きします。どの分野に必要性を感じますか（複数回答可）。
A. 害に強い地域づくり・・・「克雷対策技術」、「冬期道路交通の安全確保」等
B. 良いものを安く・・・「コスト削減技術」、「省力化技術」、「生産性向上技術」等
C. 自然災害からの安全確保・・・「土石流などからの防災技術」、「災害対策技術」、「危機管理技術」等
D. 環境の保全と創造・・・「リサイクル技術」、「省エネルギー技術」、「環境整備技術」等
E. ゆとりと福祉・・・「生活者の安全健康技術」、「情報化技術」等
F. その他（）

問8. 新技術導入の障害となっているものがあるとするば、それは何かお聞かせ下さい。
A. 経費的なもの B. 検査体系等制度的なもの C. 新技術に関する情報不足（工法選定 etc）
D. その他（）

（裏面の記入もお願いします。）

（オモテ面）

問9. 今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術、関心の高かった技術を3題まで選んでご記入下さい。

1. 報告技術名〔 〕
会社名〔 〕
2. 報告技術名〔 〕
会社名〔 〕
3. 報告技術名〔 〕
会社名〔 〕

問10. 報告会の開催時期についてお聞かせ下さい。
A. 今の時期が良い B. その他（ 月頃）

問11. 報告技術1題あたりの報告時間についてお聞かせ下さい。
A. 長い B. 適当 C. 短い

問12. この報告会の開催についてお聞かせ下さい。
A. 今後も続けて欲しい B. 特に開催の必要性を感じない C. 内容を改善して続けて欲しい

問13. 上記の問12. で「B. 特に開催の必要性を感じない」「C. 内容を改善して続けて欲しい」に○をされた方にお聞きします。理由またはどのような内容を望まれていますか。
〔 〕

問14. 基調講演についてお聞かせ下さい。
A. 今後も続けて欲しい B. 特に必要ない C. 講演内容を改善して欲しい

問15. 発表形式や会場設定についてお聞かせ下さい。
A. とても良かった B. 良かった C. あまり良くなかった
「C. あまり良くなかった」を選択された方（理由：）

問16. 新技術を紹介するパネル展示コーナー及びNETIS等登録技術紹介コーナーについてお聞かせ下さい。
A. とても良かった B. 良かった C. あまり良くなかった
「C. あまり良くなかった」を選択された方（理由：）

問17. この報告会全体で感じたことや意見等自由にご記入下さい。
〔 〕

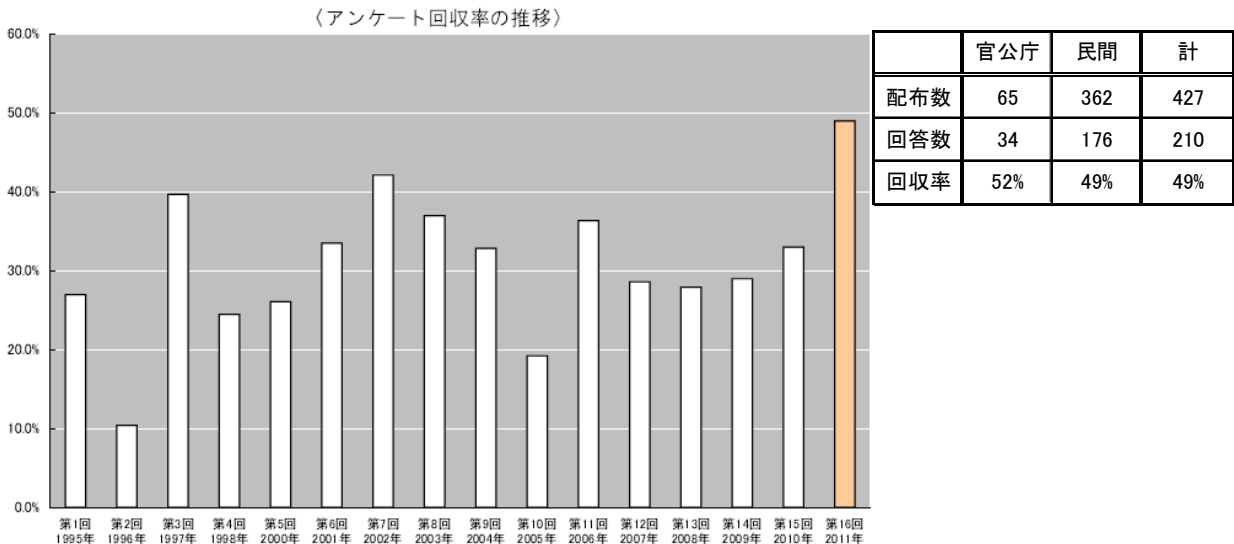
ご協力ありがとうございました。この用紙はロビーに設置していますアンケート回収箱に投函願います。
なお、後日回答のご協力を頂ける方は、以下のFAX番号に送信して下さい。
FAX：025-231-1283

「平成23年度 建設技術報告会」実行委員会

（ウラ面）

2) 配布・回収

アンケートは受付時に聴講者に配布し、第1会場及び第2会場前ロビー（ホワイエ）に設置した回収箱により回収を行った。なお、アンケート回収率は以下のとおりである。



3) アンケート結果概要

【アンケート配布・回収結果】まとめ

①アンケート配布数は、427枚、回収数は210枚、回収率は49%。

○職業・職種・参加者の住所等

- ①参加者の職業・職種では、約84%が民間。
- ②参加者の主な分野では、道路41%、河川18%、港湾空港12%の順
- ③参加者は、新潟市内が55%、新潟市を除く新潟県内が30%、富山県6%、石川県4%の順
※前回、富山市開催では富山県44%、新潟県28%、石川県19%
- ④報告会を何で知ったかは、協会団体からの案内が59%。HPは約1割。

○新技術導入及び分野、新技術導入の障害

- ①建設事業への新技術導入の必要性については、約8割が必要性を感じている。
- ②どの分野に必要性を感じているかについては、「良い物を安く」が30%、「自然災害からの安全確保」が26%、「環境との保全と創造」が23%の順となり、「自然災害から安全確保」が昨年度と比較して伸びたところが特徴。
- ③新技術導入の障害となっているのは、「経費的なもの」が36%、「積算体系等制度的なもの」が32%、「新技術に関する情報不足」が23%と昨年と同じ傾向となった。

○今後の報告会と開催時期、開催場所、発表時間

- ①開催時期については「今の時期が良い」が約8割、「その他の時期」が約2割。
- ②1題あたりの報告時間については、約9割が適当と回答。
- ③報告会の開催については、約9割が「今後も続けてほしい」と回答。

○基調講演について

- ①基調講演は約8割が「今後も続けてほしい」と回答。
- ②基調講演への意見としては
 - ・技術に対する幅広い見識を聴講したい
 - ・聴講者のレベルに合わせた内容にしてほしい
 - ・水工学に縁遠い（Cと回答した方の意見）

○報告会の報告形式や会場設営について

- ①報告会の報告形式や会場設営について、約9割が「良かった」と回答。
- ②「あまり良くなかった」と回答した方の主な意見
 - ・会場に無料駐車場がない
 - ・発表分野をまとめてもらいたい
 - ・会場が良すぎるのでは
 - ・会場の割に画面が小さい
 - ・全員分の机がほしい

○パネル展示コーナー、NETIS等登録技術紹介コーナーについて

- ①両コーナーについては、約9割が「良かった」と回答
- ②「あまり良くなかった」と回答した方の主な意見
 - ・義務的な展示に見える
 - ・少ない、パネルだけ
 - ・同じものしか出てこない
 - ・技術の詳細が不明なものが多くあった

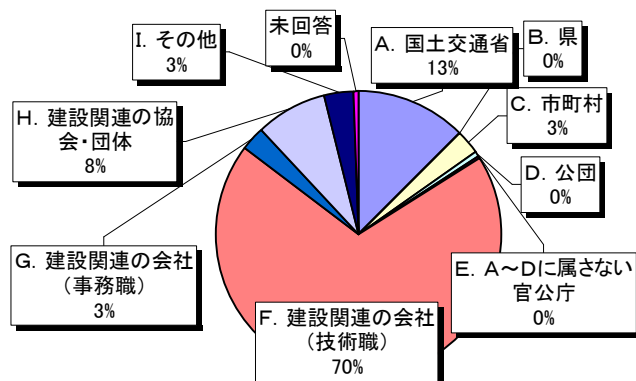
○この報告会全体で感じたことや意見等の自由意見（今後の課題抜粋）

- ・発表技術に偏りが見られる（道路系が多い）。
- ・同じ分野でグループ分けをしてほしい。又は同じ時間に重ならないように。
- ・事前に論文を出力してもってくる人が少ない。
- ・内容を確認し、数の発表より内容の発表とした方がよい。

4) 設問別集計結果

各設問の集計結果は以下のとおりである。

問 1. 職業・職種をお聞かせ下さい。

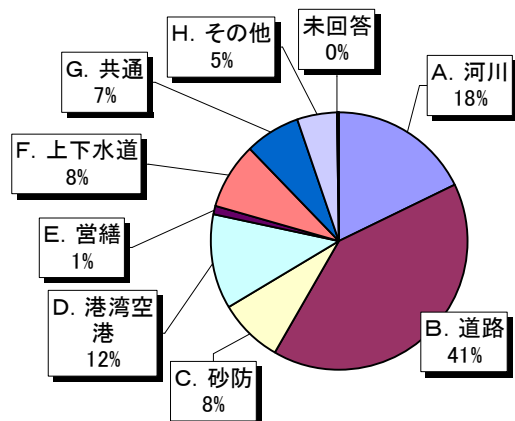


A. 国土交通省	26
B. 県	0
C. 市町村	6
D. 公団	1
E. A～Dに属さない官公庁	1
F. 建設関連の会社 (技術職)	145
G. 建設関連の会社 (事務職)	6
H. 建設関連の協会・団体	17
I. その他	7
未回答	1
	210

その他

- ・建設コンサルタント (2)
- ・コンサルタント (2)
- ・設計事務所 (1)
- ・電力 (1)
- ・環境調査 (1)

問 2. 主な仕事の分野をお聞かせ下さい。



【複数回答有】

A. 河川	46
B. 道路	105
C. 砂防	21
D. 港湾空港	31
E. 営繕	3
F. 上下水道	21
G. 共通	18
H. その他	13
未回答	1
	259

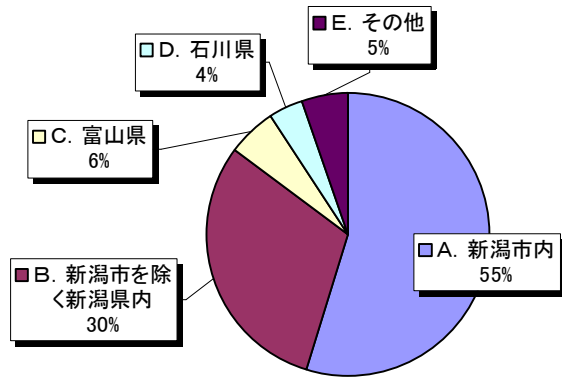
共通

- ・研究開発 (1)
- ・橋梁 (1)
- ・河川, 道路 (1)
- ・一般土木 (1)
- ・都市全般 (1)
- ・営業 (1)
- ・技術開発 (2)
- ・未回答 (10)

その他

- ・全般 (3)
- ・橋梁 (1)
- ・鉄道 (1)
- ・総合 (1)
- ・生活環境 (1)
- ・地盤調査 土質・基礎 (1)
- ・維持更新 (1)
- ・原子力 (1)
- ・情報通信 (1)
- ・構造物全般 (1)
- ・海岸 (1)

問3. どちらから来られましたか。



A. 新潟市内	115
B. 新潟市を除く新潟県内	64
C. 富山県	12
D. 石川県	8
E. その他	11
	210

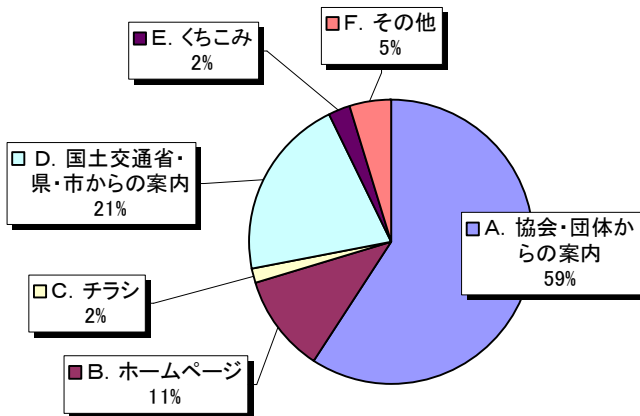
新潟市を除く新潟県内

- ・長岡市 (12)
- ・柏崎市 (4)
- ・村上市 (3)
- ・三条市 (2)
- ・胎内市 (2)
- ・糸魚川市 (1)
- ・加茂市 (1)
- ・上越市 (5)
- ・南魚沼市 (4)
- ・湯沢町 (3)
- ・新発田市 (2)
- ・見附市 (1)
- ・小千谷市 (1)
- ・未回答 (23)

その他

- ・東京都 (4)
- ・長野県 (2)
- ・埼玉県 (1)
- ・福島県 (3)
- ・福井県 (1)

問4. この報告会を何で知りましたか。



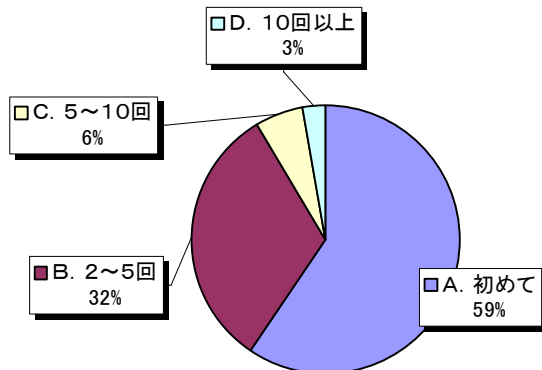
【複数回答有】

A. 協会・団体からの案内	125
B. ホームページ	23
C. チラシ	4
D. 国土交通省・県・市からの案内	44
E. くちこみ	5
F. その他	10
	211

その他

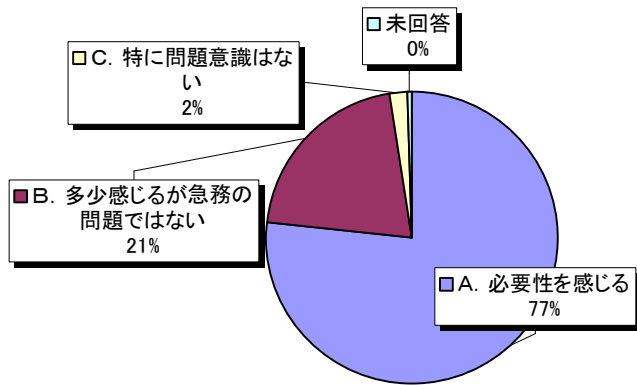
- ・会社 (2)
- ・社内イントラネット (1)
- ・RCCM協会HP (1)
- ・建設コンサルタントHP (1)
- ・支店からの発表依頼 (1)
- ・未回答 (3)
- ・社内通知 (1)

問5. この報告会の参加回数をお聞かせ下さい。



A. 初めて	125
B. 2~5回	67
C. 5~10回	12
D. 10回以上	6
	210

問6. 建設事業への新技術導入の必要性についてお聞かせ下さい。

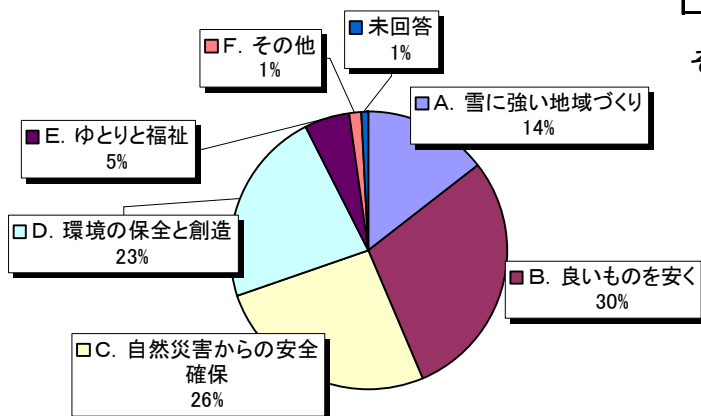


A. 必要性を感じる	161
B. 多少感じるが急務の問題ではない	44
C. 特に問題意識はない	4
未回答	1
	210

問7. どの分野に必要性を感じますか。

【複数回答有】

A. 雪に強い地域づくり	62
B. 良いものを安く	126
C. 自然災害からの安全確保	112
D. 環境の保全と創造	99
E. ゆとりと福祉	23
F. その他	6
未回答	3
	431

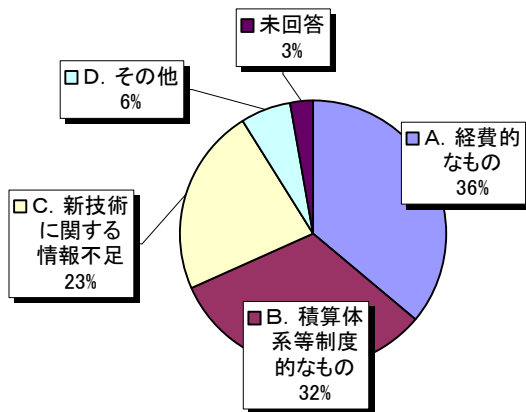


その他

- ・もう少し人文的な公共事業等における広報について
- ・安全性向上
- ・構造物の耐久性の向上
- ・老朽劣化した工作物の維持補修
(主にコンクリート)
- ・長寿命化
- ・ストックマネジメント

問 8. 新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何かお聞かせ下さい。

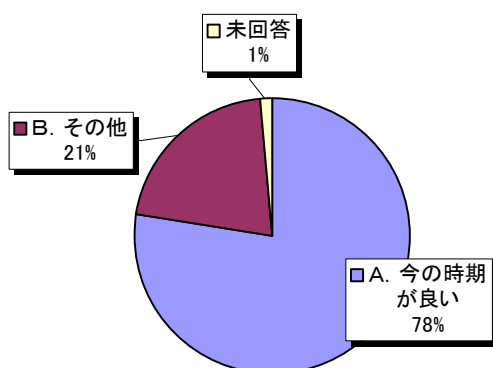
【複数回答有】



A. 経費的なもの	89
B. 積算体系等制度的なもの	79
C. 新技術に関する情報不足	56
D. その他	15
未回答	7
	246

- ・現在の落札率では研究費がわるい
- ・情報不足と勉強不足、新技術を育てる環境の不足
- ・人的災害のおこるものを優先する考え無し
- ・官庁職員の意識改革
- ・新技術導入の効果評価の検証方式
- ・技術提案ではコストがかかる
- ・施工実績ないことを理由に採用しない姿勢
- ・実績がないものについては、なかなか取り入れられない風潮がある
- ・発注者側はとかく実績を重視する。実績の無い工法の取り組みには臆病
- ・提案しても採用してくれない
- ・技術導入・提案に際し、発注者よりの制約・注文条件が多すぎて実施に至らない
- ・実績にとらわれないで採用する勇氣、気概、チャレンジ精神。
たとえ施工管理基準があってもそれを問わない。
- ・信頼性、確実性
- ・シガラミ
- ・実績

問 10. 報告会の開催時期についてお聞かせ下さい。



A. 今の時期が良い	163
B. その他	44
未回答	3
	210

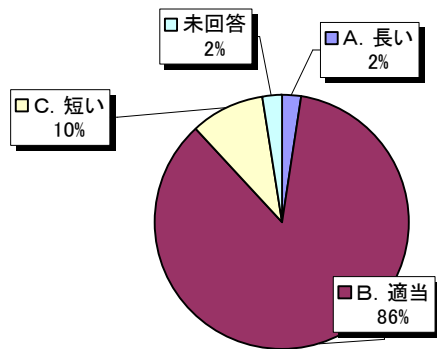
その他

- ・ 5月 (17)
- ・ 6月 (9)
- ・ 4月 (6)
- ・ 11月 (5)
- ・ 9月 (2)
- ・ 12月 (2)
- ・ 1月 (1)
- ・ 2月 (1)
- ・ 7月 (1)

※開催時期について「その他」の理由
 ・・・・フェア、道路会議と重なる

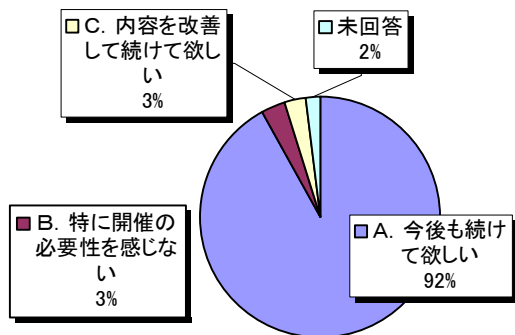
※問 9 は発表の中で現場で活用したいと感じた技術について

問 1 1. 報告技術 1 題あたりの報告時間についてお聞かせ下さい。



A. 長い	5
B. 適当	180
C. 短い	20
未回答	5
	210

問 1 2. この報告会の開催についてお聞かせ下さい。



A. 今後も続けて欲しい	193
B. 特に開催の必要性を感じない	7
C. 内容を改善して続けて欲しい	6
未回答	4
	210

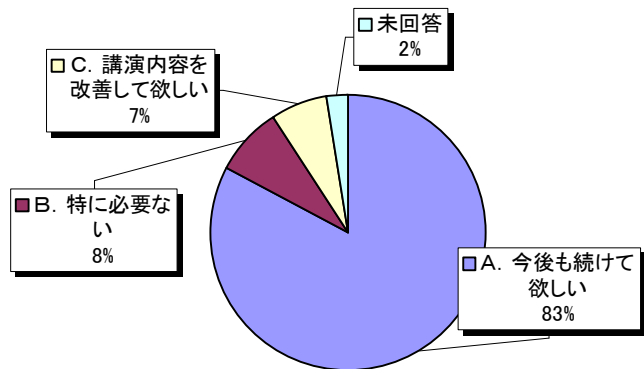
問 1 3. 問 1 2 で「B」または「C」と答えた方にお聞きします。
理由またはどのような内容を望まれていますか。

- ・北陸特有のテーマや北陸人の発表が極めて少ないことから中止しても困らない
- ・書面で理解できる。
- ・新技術をもっと意識できるように発表順番や展示を工夫すべきと思われる。
(例：NETIS 分類ごとの区分けや発表とリンクした展示の並べ方設置位置の工夫)
- ・インターネットで流せば良いと思う
- ・毎年は必要ない。テーマがもたない。
- ・参加者の大半が CPD ポイントのために出席しているが、内容はプログラム埋めるために作られた程度の発表で目新しいものが何も無い
- ・内容の確認と必要性を事前確認し発表して欲しい。
- ・時間が非常に短すぎる。
- ・新技術の向上も良いが平均給料が下向きになっている中で現場環境の改善などの報告が多くあっても良いと思う。

【番外編】

- ・こういうことでもなければ新技術が分からない (A の理由)
- ・A に◎

問 1 4. 基調講演についてお聞かせ下さい。

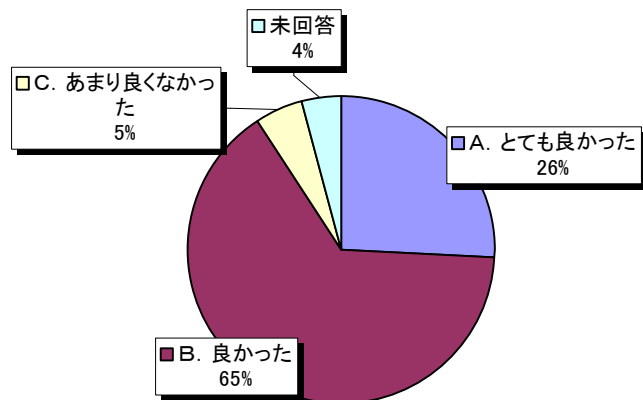


A. 今後も続けて欲しい	174
B. 特に必要ない	17
C. 講演内容を改善して欲しい	14
未回答	5
	210

意見

- ・技術に対する幅広い見識を聴講したい。
- ・聴講者のレベルに合わせた内容に。
- ・水工学に縁遠いから。(Cの理由)

問 1 5. 発表形式や会場設営についてお聞かせ下さい。

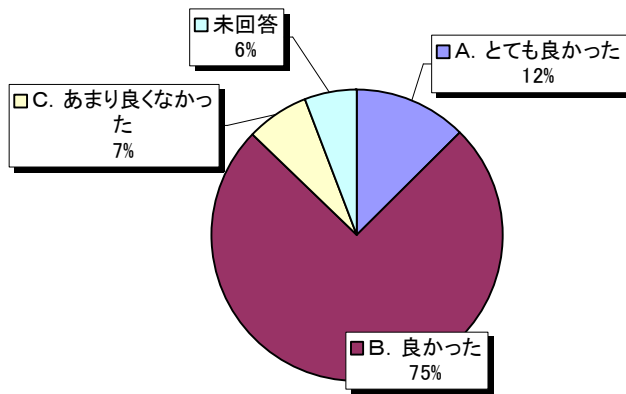


A. とても良かった	54
B. 良かった	137
C. あまり良くなかった	10
未回答	9
	210

Cの理由

- ・無料駐車場がない
- ・業種ごと(道路系、ゼネコン系、マリコン系・・・)に会場orグループ分けをしてもらいたい
- ・発表の分野をまとめてほしい(同一会場)
- ・会場良すぎるのでは
- ・1日居るので良い「イス」が欲しい
- ・会場の大きさの割に画面が小さい
- ・BとCの間
- ・全員分の机があればなお良い

問16. 新技術を紹介するパネル展示コーナー及びNETIS等登録技術紹介コーナーについてお聞かせ下さい。



A. とても良かった	26
B. 良かった	157
C. あまり良くなかった	15
未回答	12
	210

Cの理由

- ・義務的な展示に見える
- ・少ない、パネルだけ
- ・もう少し多数の展示を求めます。
出展する社が少ないです。工夫して多くの企業にPRしてもらえれば朝、昼の時間にもっと見られたと思います。
- ・パンフレットが置いてあるだけ
- ・同じものしか出てこない
- ・NETISの内容は知っているし、新技術とは思えないものばかり。
- ・展示数が少ない
- ・ブース少ない(面積)
- ・もっと多くの技術資料が欲しかった
- ・技術の詳細が不明のものが多くあった。
- ・実際に使用できないケースが多いから。

問17. この報告会全体で感じたことや意見等ご自由にご記入下さい。

- ・東京の本社や技術研究所からの発表が過半数を超えている。全国一般の発表テーマが多い。各ブロックで開催する理由がない。方針を見直したら
- ・スムーズな会場運営であったと思います。
- ・単なる工法紹介が多い。新商品プレゼンが悪い訳ではないが、少し目立つ。
- ・気象災害（台風、梅雨前線等）におけるいち早い予測、河川の増水、洪水被害の予測をしっかりとってほしい。国交省の人も気象予報士の資格必要。
- ・今後も続けてほしいと思います。
- ・NETISについての情報を増やしてほしい
- ・情報収集並びに交換の場として有効利用できた。
- ・道路関係の技術発表が多い様に思える。もっと他工種の新技術の発表を集めてもらいたい。
- ・発表技術に偏りが見られる。可能であれば各分野の発表があれば良い。
- ・会場が寒かった。
- ・延長床版システムプレキャスト工法も発表があった方が良かった。
- ・各社社会貢献に尽力されていて感動しました。日本の土木技術に今後も期待します。
- ・報告者に事前に15分としか伝えていないのではないのでしょうか。質問時間をとることなど実質の発表時間をかなり前から伝えておいた方が良いと思われます。早口になっている方が多い気がします。
- ・公共投資が抑制されているなかでも様々なニーズに対応した技術開発が進められていることを再認識できた。
- ・同じ分野（例：舗装）は同じグループでまとめてほしい。もしくは、同じ時間に重ならないようにプログラムを組んでほしい。
- ・第1、第2会場の分かれた報告のため、途中で出ていく人が多い。何の基準で分けたのか不明。
- ・もっとたくさんの技術を紹介してほしい。多数の参加に向け、PRに努めてほしい。
- ・石川県でやってほしい。
- ・全体として長年行われてきた運営のすばらしさがわかりました。しかし企業側にはあまり伝わらず、非常に良い企画でありながらあまり参加の力の入れ方が弱いように思います。PRに努めていただければなおよろしいと思います。
- ・新技術・新工法の内容を知る機会がないので、この場は大変役に立った。
- ・基調講演の技大の細山田教授のお話や映像に感心するとともに、将来の予測できるものとなればと思います。
- ・来年もぜひ参加したい！
- ・勉強になりました。施工会社の発表の中に身近な物があってよかった。
- ・報告件数を減らしても良いので、各八票時間をせめて5分程度長くしては。
- ・CPD単位が少ないのでは？
- ・会場費が高そう、駐車場も高い、昼食も高い。
- ・事前に論文を出力して持参する人が少ない
- ・発注者、施工者、学校等の参加（片寄りが見られる）
- ・技術面の報告のほか、コスト面についての話もあると良かった。
- ・東日本大震災の話がもっと出ると思ったが、そうでもなかったので少し残念に思っている。
- ・発表者に対して発表時間を厳守するよう事前に周知を願う。
- ・クーラーが効きすぎ。
- ・富山県もしくは石川県で開催して欲しい。
- ・とても良かった。
- ・実行運営のご苦勞に感謝します。
- ・数多くの技術情報の紹介があり、有意義であった。
- ・内容を確認し、数の発表より内容発表の方が良いかと。
- ・設計要領、示方書、指針、基準等の改定の情報があったら教えて下さい。
- ・細山田先生のお話を楽しく聞かせてもらいました。来年も参加したいです。できれば発表資料を配布してほしい。
- ・今後一層の社会資本整備の重要性が増す中で、現場に根付いた新技術の開発が進んでいることを実感できた。
- ・論文のダウンロードに容量が大きく時間がかかる。
- ・理解しやすく大変良かった。
- ・グループ内で聞きたい技術が重複したり、会場を移ることにより途中からの聴講となることがあった。会場毎にグループ分けした方が良かったのでは？
- ・アンケート問9を簡略化したらどうか。
- ・全体的に良かったと思います。